

## 第4次葛飾区地域福祉活動計画 第3回作業委員会 議事要旨

開催日時	令和3年8月10日(火) 午後2時00分～4時00分
開催場所	ウェルピアかつしか 1階 ひがほりめもりあるほーる
出席委員	小野委員長、佐藤副委員長、唯根委員、澤日委員、森谷委員、入澤委員、久保田委員、福田委員、朝倉委員、佐野委員、添田委員、田浦委員
配布資料	【資料1】地域福祉活動を活性化する方策 【資料2】第4次葛飾区地域福祉活動計画(素案)

### 1. 開会

#### 委員長

本日は第3回目の作業委員会に、大変暑い、そしてお忙しい中を出席いただき感謝している。新型コロナウイルス感染症がかなり拡大している状況で、限られた時間内ではあるが、皆さんから意見をいただきながら活動計画の検討を進めていきたい。

第2回策定委員会で委員の方々から居場所づくりも含めて、今までになかった活動が出てきたことについて質問や意見をいただいた。このあとで説明があるが、実際に進めていく中でも地域の方々からいろいろなご意見をいただいている。それを受けて、実際にある問題をどう解決していくのかを検討していきたい。かなり具体的な話になるかと思うので、ぜひとも皆さんからご意見をいただきたい。

まず、6月18日に行われた第2回策定委員会についての報告を事務局からいただきたい。

事務局より、第2回葛飾区地域福祉活動計画策定委員会について報告があった。

#### 委員長

資料1について説明する。策定委員会としてこういう方向で活動計画を作っていくという中の一つの大きな枠組みに地域の居場所づくりがあり、それを社協としても行っていく。それについて、第2回策定委員会で「身近な居場所づくり」が具体的に出てきている。次に、「小地域福祉活動やNPO、ボランティアなどをつなげる仕組みづくり」について策定委員会からの意見が載っている。その次の「担い手の人材確保」については地域活動を行うにあたり人が課題になっている。これは作業委員会でもずっと言われてきたことであり、策定委員会でも同じ意見が出ている。最後の「地域住民の理解促進」では、あまり意見が出ていない。いずれにしろ「居場所づくり」について多くの意見が出された。

地域福祉活動計画では本来の地域活動を活性化していくことが目標であり、その目標に具体的な活動の内容が出ている。その中でも身近な居場所づくり、人材確保、あるいは連携というキーワードが出てきている。今日は、この地域福祉活動を活性化する方策を皆さんと協議していきたい。

### 2. 議事

#### (1)地域福祉活動を活性化する方策について

事務局より、資料1に基づき説明があった。

## 委員長

前回の策定委員会でも、居場所づくりを具体的にどうするのかという話があった。社協として事業として始めたところがあり、その内容について説明をいただいたが、その後の進み具合を説明してほしい。

## 委員

今、居場所づくり事業について話が出ているが、サロンや子ども食堂などさまざまなかたちの居場所づくりがある。その中の一つとして、今年度から社協は区から建物を借りて、そこで居場所づくり事業を実施していきたいと考えている。資料2の46ページをご覧ください。社協では、ここにあるように子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域の中で、健康でいきいきとした暮らしができるように、自由に集まり、交流することができる「居場所」を運営していきたいと考えている。運営には、地域の住民や地域の団体、社会福祉法人、ボランティア、NPOなどさまざまな方に協力いただきながら、人とつながりが楽しめる、また、「やりがい」や「満足感」が生まれる場所を目指していく。このような取り組みを考えている。

区から借りるこの建物は東金町にあり、その地元の方への説明をしているところだ。この東金町地区の連合町会の町会長会議、その建物がある自治会の役員会、さらにはその建物がある近隣住民の方、それぞれ段階的に説明した。その建物がある自治会の役員会で、役員の1人から、こういう気軽に立ち寄ることができて、おしゃべりのできる場はとても重要だという話があった。その方自身も自宅の庭を開放していて、近所の方が気軽に来ておしゃべりできる縁側のような場所を提供している。ただ、その庭には屋根がないから、雨の日は集まらない。この建物には屋根があるから、雨の日にはみんな安心して来ることができる。運営には地元の住民をはじめいろいろな人たちが関わってくると思うから、運営に関わる人たち同士で意見交換をしながら取り組みを進めていってほしいというご意見をいただいた。

ほかの役員からも、家の近所に空き家があって、空き家のまま放置すると防犯上良くないので、できればこの事業を足掛かりにして、区内にある空き家を活用して、こういう取り組みをどんどん拡充していってほしいと言われた。町会側としてはこの事業に協力していくということで意見をいただいている。近隣住民の方の意見も大体同じようで、地域のために良い取組なので、ぜひ行っていただきたい。ただ、取り組みが始まったあと責任の所在や運営上の管理をしっかりしていただきたいというご意見であった。この事業の必要性についてはご理解いただいたという状況だ。

## 委員長

作業委員会でも課題として、地域の方のつながりがつくれない、拠点がないとつながりがつくれないという話もあった。その拠点づくりということも含めて、まずは1箇所で行ってみようという社協からの提案だった。今は地域の人たちに話をし始めたところだ。

## 委員

大体ご理解をいただいた。

## 委員長

例えば運営上の責任の所在や管理の問題など、具体的にはどんな意見が出ているのか。

## 委員

運営していく上で町会の一員としていろいろな活動にも参加してほしいし、ルールを守ってほしいと

いうことだ。

委員長

居場所づくり、連携、人の確保などのキーワードが出ているが、この居場所づくりを中心に据えたときに、地域の方には抵抗感もあるかもしれない。一方で住民だけで何かをするのは難しい、当然連携が必要になってくるかもしれない。これまでの話を聞いて、皆さんからご意見をいただきたい。

委員

この施設は区のものか。

委員

区が所有する住居だ。

委員

建物の電気や水道などの経費は町会が負担するのか。

委員

社協が実施主体なので、寄付を財源にした地域支えあい基金を設けて、それを財源にして社協が運営していく。社協が負担する。

委員

堀切地区が最初に始めた頃と同じやり方でやるのか。葛飾区の空き店舗対策と地域の高齢者対策からサロン活動を堀切まちづくり懇談会の広報部会に話があり、広報部会員を中心にボランティアを募り、始めた経緯がある。その時は、すべて区と社会福祉協議会がお膳立てして、勉強会も何回か開いていただいたが、理解が難しいところがあった。社協におんぶに抱っこで、社協から外れるときはみんなが右往左往する感じだった。様子を見ていると大変だったという感想がある。上手にバトンタッチができる、みんなが自分でやれるという責任を持つということが大事だった。日本のような親方日の丸みたいなかたちの地域にはしてほしくない。

委員

堀切地区での経験を生かしていきたい。

委員長

地域の人たちだけでやるのは難しい。社協だけではないかもしれないが、そこにサポートが要る。

委員

それを見ていられなくて、自分は自分でやろうと思って私は始めた。みんながおんぶに抱っこでやれるというのはなかなか難しい。リーダーシップがある方が先に立つ、あるいは逆に社協がしっかりリーダーシップを持つ方を育てて先に出す。そこが大事だと思う。

## 委員

場所がある、ハードは確保できた。どういうものやっていくのかというソフトの部分はどういうものをイメージしているのか。参考にした事例はあるのか。この2点を教えてほしい。

## 委員

活動の内容については、基本的には気軽に立ち寄れて、誰でもお茶を飲んでおしゃべりができるというサロン活動をベースにしていきたい。そのほかにいろいろな団体の特徴あるいは強みを生かして、日替わりあるいは週替わり、月替わりで相談事業や子どもの学習支援、子ども食堂などができればよいと考えている。参考にしたのは、板橋区のUR、公団の下でNPOがやっている取り組みがあった。そこに行けばいつでも誰かがいる、おしゃべりができる、ご飯が食べられる。また、いろいろな人が集まって自分の特技を生かしていろいろな活動ができる。参加して楽しむだけでなく、自分がそこで活動を展開していけるような場所にしていきたい。

## 委員

肝になるのはソフトウェア、何をやるのか、それを誰が仕掛けるのか。地域の人はずユーザーとして参加するところから始まると思う。その次のステップとして自主的に何かを企画することができるという、そこまで回転させることが一番の課題だと思う。そこがうまく回っていくことが課題だ。東金町では誰かがいて企画が準備できていることが重要だと思う。

## 委員長

中で何をやるのか、そしてどう仕掛けるのか。

## 委員

URの話で聞いているところではライブラリーを開く、みんなで持ち寄ってクラフトを売る、ほかに喫茶ランドリーとか、足立区ではひよこカフェなど、例えば民家の1階でカフェをやって、そこに人が集まる。誰か回す人がいて、企画がベースにあることが大事だ。

## 委員長

誰がやるというと、住民だけでは難しいところがある。何をやるという、具体的にソフトとして作り上げていくときに、最初の段階ではきちんと考えていく人たちが必要になってくる。

## 副委員長

この資料を見ていると、社会福祉協議会にコーディネーター役をお願いしたいという文面があちこちに出ている。社協の皆さんの力に依存するところが非常に大きい。例えばこの東金町の施設にしても、地元町会連合会、あるいは民生児童委員協議会、あるいは青少年育成委員会、PTA、子ども会、NPO、ボランティア団体などの代表者に集まっていただいて運営委員会みたいなものを作り、各団体が例えば月1ぐらいでその団体の得意とするところをトライしていただく。それで年間グルグル回していく。今週は町会、次週は民児協、次は子ども会・PTA、次はボランティア団体、そういうかたちで各団体が得意するところ、あるいはターゲットにしている世代に向けていろいろなことを企画したらいいのではないか。そうした組織作りをできるのはやはり社協だ。町連や民児協の人たち、各団体の責任者のリストを持っているのは社協だけだ。それぞれ全く横のつながりがないので、それをしっかりやっていた

だくということで社協の役割は大きい。つなぎ役、コーディネーター役をしっかりと果たしてほしい。各団体が力を合わせて、いろいろなアイデアが出て、有効活用ができるのではないかな。

#### 委員長

組織というキーワードが出てきた。その組織にはサポート役が必要で、そこに社協の役割があるのではないかな。

#### 委員

ソフト面が一番大事だけれども、私は自分でNPOに関わってきて、立地条件などのハード面はとても大事だと思っている。うちは水元という地域で始めたが、障がい者の保護者がやる団体を地域の人を理解するかどうかわからないから、区役所の障害福祉課のアドバイスは、まず民生委員に評議員をお願いし、特別支援学校の校長先生も巻き込み、社会福祉法人の理事長も巻き込んで、そういうバックが付いてこそ、あなたたちの団体は地域の方々から認めてもらって活動がしやすくなるはずだということだった。当時の社協や町会が全面的に応援してくれて、本当に助かったという記憶がある。今は地域を引っ越したが、2つの町会に属していて、何かあったとき、例えば災害が起きたというときにはどちらの町会にもお世話になれるようにしている。町会や民生児童委員の力で地域の方の理解は必ずある。そのハード面がとても大事だから、場所が借りられるというのは大きい。今、東金町の町会が受け入れてくれているのはすごく大きなことだ。周りの町会長をお願いしていけば地域を巻き込める。巻き込めるという言い方は変だけれども応援してくれる。

その内容が子どもから高齢者という、とても幅広いことが少し心配だ。例えば子供の貧困問題、高齢者の居場所とか、初めはある程度焦点を絞っておいたほうがやりやすいのではないかな。あまり間口が広いと運営するほうが難しいと想像している。東金町地区の状況がわからないけれども、もし子どもの問題が大きな問題になっているのなら、そこに焦点を当てるのもあるかもしれない。

#### 委員長

今のお話からすると、やはりハード面は大きい。

#### 委員

条件として建物があることはすごいことだ。

#### 委員長

そこに人もいて、その人たちのつながりが大切だ。人材の問題もある。

#### 委員

皆さんの意見を感心して聞いていた。居場所づくりには、その場所をまず確保することが大事だ。そして、中心になる人、今は社協が中心になって進めているが、実際に運営するとなると、そこに常にくてくれるリーダーが必要になる。私たちも横のつながりがなかなかできなくて困っているが、ここに来ているいろいろな方々と横のつながりを徐々につくっていききたい。

#### 委員長

リーダーというのはどういう方をイメージするのか。

## 委員

その地域の人で、その地域をよく知っている方。いきなり知らない土地に行ってもなかなか地域の人との結びつきを構築することは難しいので、その地域に長く住んでいてその地域の状況をよくわかっている人が必要だ。

## 委員

先ほど自宅の庭を貸している方がいるという話があったが、時間や曜日は限られるとしても、そこに行けば必ず誰かがいて話し相手になるとなっていないと、いくら建物があってもなかなか難しいのではないか。私は基本的にはカフェみたいに、時間を決めてその時間は開いている。そして、何曜日にはここを借りて何をやりたいという人が徐々に出てくるのではないか。ただ、初めから何かやってくれと言ってもそれは難しいと思う。新宿保育園の前の木がこんもりしていてベンチがある場所に、いつもお年寄りが何人も集まっている。それはとてもよいと思っている。天気の良いときにはそれで十分楽しむことができる。ああいう感じのところ。必ず何かをやらなければいけないというのではなくて、居場所というのはそこに行けば何となくほっとできる、そういうものではないか。

いつも車で通るときに見ると、誰かが必ずいて集まってきている。だから、きっと居心地がいいのだと思う。昔はスーパーでも椅子があると高齢者がずっと座っていたが、今はコロナでそれも取り払われて、そういう方はどこに場所を求めているのかと心配になることもある。朝から晩までは難しいと思うけれど、何時から何時であればそこに行ったら誰かがいる、何かおしゃべりができる。せっかく建物を手に入れることができるのなら、そういうものができないだろうか。

## 委員長

そういう居場所をどうつくっていくのか。

## 委員

3つのことを思っている。1つはビジョン。今回は東金町に居場所をつくるという話だが、今後5年間でその1つの居場所を深めて質の高いものをつくり込んでいくのか。それとも、もう1拠点作りたい、あるいは広げていくのか。それによって今後の運営方針や関わる人たちの行動が変わると思う。東金町に1つできるということはすてきなことだけれども、葛飾区は非常に広いので、今後どういう展開を考えているのかについて興味がある。

2つ目にリーダーが非常に大事だ。居場所をつくるというのは、ペットボトルや机を作るということとは全然違う話だ。何が違うかという、ふわふわしていてわかりにくい、形が見えないところがポイントだ。現場のリーダーになる人がどういう居場所を理想として掲げるかによって性格が変わってくる。我々Learning for Allで小学校低学年向けの居場所を葛飾区や違う自治体で運営しているが、建物の大きさやスタッフの数はそんなに変わらないので同じような現場になるはずなのに、来ている子どもの過ごし方や様子が違っている。それは拠点長、現場のトップとして働く人が何を理想として掲げるかによって違っている。子どもたちがワイワイと過ごすのを理想の居場所として考えるか、それとも貧困の子どもたちだから礼儀作法を学ばなければいけないと考えるか。そういうことで全く変わってくるので、リーダーとして立つ人は本当に大事だと思う。

3つ目に、運営のあり方、オペレーションのこまごまとしたところは大事だと思っている。先ほど、ここに行ったらこの人がいるという話が出たが、常勤職員が常に1人いる現場なのか、それとも非常勤の人が代わる代わるで運営しているかによっても違ってくる。昔、週5日運営する居場所を開所したと

きに非常勤の人たちで現場を回していたが、情報共有が大変だった。居場所をつくる上で細かいところも重要だと思うので、どういう運営形態にするのかを考えておかなければいけない。

委員長

葛飾の現状を見たときにどういう方向が望ましいかを、この委員会から出していきたい。

委員

歩いていける範囲に居場所があることが理想だと思うので、数としては増やしていきたい。

委員長

数を増やしていくための戦略として、今何をすべきか。

委員

数を増やす上でも居場所を1個つくってみて、やり方を学んでいくしかない。増やすために運営を効率化というか、誰でもできるように簡易化することを考えつつ、あとお金とセットになるので予算内でどうやって全区に広げるか。その1つを回しながらモデルを探っていく。

委員長

その地域の実情に応じてというところもある。

委員

家の近所で面白いことをやっているところがある。高齢者が集まる鍼灸院の先生が子ども食堂の人とくっついて、自分の場所を開放したり寄付したりして、それが人を呼んでお茶会みたいなこともやっている。人を集めるということではPTAという副委員長の話があったが、PTAは人が集まらなくて、実は大変な状況だ。参加する方たちについては、もう少し幅を広げてもいいのではないか。

委員長

面白いことをやっている人とどうやってつながるのか。

委員

東金町のどういう場所かわからないけれども、地区センターや集い交流館で活動している人たちが現にいる。そういう人たちと一緒に活動してそれを普及させて、さらに地域の人ともっと交流を深めて活用していけば、その人たちももっと活動ができる。お互いの関わりが生まれる。

気になるのが、引きこもりの人たちもそのターゲットに入っていると思うが、その人たちにとって居心地のいいということを考えなければいけない。先ほど唯根委員がおっしゃったように、居場所というのは何かをすることが目的ではない、ほっとできる場所だ。特に引きこもりの人たちが人に寄り添ってもらってボランティア活動に参加できる。それを社協が見つないでいてほしい。その活動の場に参加できて地域との交流ができる。そのときにリーダー的な人がいて方向性を示しながら、障がいがあればその障がいの理解も深めながら寄り添ってもらって一緒に行動してもらおうと、その人たちは引きこもりではなくなる。私の支援している中でそういう活動で入った方が就労するようになった。そういうことが地域に必要なだ。

## 委員長

居心地がいいというのは何かプログラムというよりも、ふらっと寄る場所にどうつくっていくか。それは地域に必要な考え方だというご意見が出ている。入澤委員から出たように、この拠点づくりを地域福祉活動計画の中でどういうビジョンを持ってやっていくのか。モデル的に5年間きっちりやってみるという目標もあるかもしれないし、何年かで広げていくこともあるかもしれない。ただ、広げていくのは難しいかもしれない。いろいろな考え方があっていいので、そこを皆さんにお聞きしたい。やはり人の問題が出てくる。ここにも人材確保が出てきているが、具体的に戦略を考えなければいけない。ただ、ここに東金町の人がないので、聞いてみないとわからないところがある。それがあったとしても、地域の中の拠点にはどういう人をどういうふうにつなげていけばいいのか。そこには機関連携がキーワードとして出てくるかもしれない。ビジョンも含めて皆さんの考えをお聞きしていきたい。

## 委員

どこまでを今日は詰めていくつもりなのか。

## 委員

この取り組みは初めてということなので、3年から5年ぐらいモデル的にやっていきたい。ここでいろいろなことをやってみて、うまくいくこともあり、いかないこともあるだろうと思っている。お金がどのぐらいかかるのか。補助金を活用してやっていきたいと思っているが、社協の自主財源になるので限りがある。この先のどのぐらいの資金があれば運営していけるのかを、この先3年から5年かけて検証していきたい。人の問題はすごく重要だと思っている。どう発掘していくのかが一番の課題だ。こちらからお願いしてやってもらおうと、どうしてもやらされているという感じに捉えられてしまうので、できれば自主的に手を挙げてもらおうかたちで探していきたい。最初からいろいろなメニューはできないと思うので、まずは9時から午後5時まで週5日間とにかく開いている。ここに来れば誰かがいてお茶を飲んで話ができるというところから始めていきたい。まずは地元の方に利用してもらわなければ始まらないと思っているので、地域の町会員の方に利用していただいて、その利用していく中でリーダーになってくれるような人を見つけてやっていただけるといいと考えている。やっていく中でいろいろな団体が関わってくるので、運営方法についてはみんなから意見を聞きながら5年間で検証していきたい。できれば、こういう居場所は区内のいろいろなところにあったほうがいいと思うので、広げられるのなら広げていきたい。しかし、場所やお金の問題があるので、例えば場所があってスタッフがいるからやりたいたいという相談があったときに、社協としてはソフト面のアドバイスをすることで増やしていきたい。

## 委員

1年目の予算はどのぐらいを想定しているのか。

## 委員

建物の改修費を含めて900万円ぐらいだ。改修費が400から500万かかる。初年度は備品費がかかるので、ソフト面だけだと年間300万円ぐらいだと考えている。今は区の所有している建物でこういう事業をやるということなので家賃は免除してもらっている。

## 委員

今回、東金町が決まったのは何件かある中で決めたのか。



委員

こういう物件がたまたま空いたので、やりたいということで手を挙げた。

委員

次に別の場所でとなると、建物を探すところからスタートするのか。

委員

こういうかたちの建物はないと思う。だから、空き家を活用してとなるのではないか。

委員

私も同じことをしているが、人は何かがないと集まらない。リーダーになる方にすごく魅力があったら、そこに行くかもしれないが、その300万円も500万円もかけた結果が1人とか2人しか来なかったとしても、何年間は続けていくのか。そこが問題だと思う。助成をもらっていて人数のことをいつも言われる。でも、実際にケアラズカフェに毎日何人も人が来たら困る。1人2人がゆっくりと来ておしゃべりして帰っていくのが普通だと思うが、やはりお金をかけたから人を集めなければいけないとなると、ちょっと違うのではないか。ほっとできるということだけでみんなが集まることのできるというのは大変だ。

委員

まずは地元の人に、ここで話ししてということから始めて、みんなが気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりから始めていきたい。併せて、それ以外の方、子育て中の方、子どもたちに対しても行ってみたいと思うメニューをいろいろな方に協力していただいて提供していきたい。

委員

人が集まるということが目標か。

委員

人が集まることだけではなく、そこへ来て何らかの課題が解決できたという満足度みたいなものも調べていきたい。

委員

場所があるので300万円を稼ぐビジネスモデルを考えてくださいということで借りる人を募るとか、どうか。あるいは、300万円を貸し出すから稼いでねとか。地域のためにやっただけでは、疲れたから今日は休もうとなってしまうかもしれない。何か新しいかたちを考えたらどうか。

委員長

それも一つの考え方だ。自分がやるとしたらどうかというビジョンを出してほしい。

委員

私がびっくりしたのは週5日で9時から午後5時まで開けるということだ。それはどういう人が開けるということを考えているのか。

委員

管理運営は区内に拠点を置いて活動している団体に募集を掛けようと思っている。

委員

NPOとかに委託するということか。

委員

そうだ。

委員

特定のNPOに委託すると、そのNPOが得意とする分野の居場所になる。

委員

その時間ならとにかく誰でも近所の方が来られるようにしていただく。それ以外の時間、週5日の9時から午後5時以外の時間は管理運営している団体が自分たちの活動で使っていて構わない。

委員

いろいろな団体に特定の時間と場所を貸すことを考えているのか。

委員

そうだ。金町地区でお茶飲み会をやりたいということであれば、その時間を使っていただく。

委員

私はそういうことをやりたいと思うが、今の民生児童委員という立場がなくなったら時間もあるから1日ぐらいはやってもいい。今の状態では難しい。

委員長

地域で誰がやるのかというときには、そういう話だと思う。それを継続していくためにどうするか。それを乗り越えないと、地域の担い手がいなくなり、場合によってはこの状況下では人がつながらなくなって、何が起きてもおかしくない。それを避けたいから、みんなでこれを乗り越えようという話をしている。社協としての案もあり、住民の計画もある。私だったらということを話してもらいたい。先ほどのビジネスモデルも一つの考え方だと思う。稼いで自分たちのポケットに入れるわけではなくて、その運営をどうしていくかも一つの考え方だ。

委員

カフェをやりたいという人はすごく多いと思う。そういう人たちに曜日や時間帯を区切って借りてもらえるのか。

委員

そういうふうにしたい。

## 委員

お店を持ってないので昼間にほかの店の場所を借りてやっている人もいる。そういう借り手もいると思う。そういうものはあるのか。

## 委員

キッチンはある。

## 委員

食事を出すとなると保健所の許可が要る。

## 委員長

地域でやるとなるといろいろな法律が邪魔をする。

## 委員

東金町の話聞いたときに、漠然としていて何をどうしたらいいかわからなかった。今、委員のお話や、皆さんの質問に答えているのを聞いて、そういうものかと思った。ただ、あそこに家があるからといって誰が来るかわからない。高齢の方が来るかもしれないし、子どもが来るかもしれない。来たからといって断るわけにはいかない。誰が来るかわからないのをどうやって運営していくのか、疑問に思っている。でも、その利用する人の年齢を決めることはできないし、来る人は拒まないというかたちになると思う。運営については、委員から出たように、使ってみたいグループに空いているときは使ってもらうのはいいことだと思う。何人来るかわからない中で運営していくので、そういうことも必要だと思う。私たちのサロン活動も同じようなことを抱えている。

## 委員

私も実際にやっていて困っていることはセキュリティだ。私は女世帯なので、例えば認知症の方が包括の方に紹介されて見えた。朝の8時頃からパジャマのままでピンポンとする。今日はその日ではないと伝えても、毎日来て困ったので包括の方に伝えた。その後、包括の方が家族に注意したらしくて2、3日来なかったけれども、場所を覚えてしまったから朝8時頃からまた見える。その方は要介護3だったので包括でデイサービスにつないだ。最初はお金がかからないからここに行ったらいいだろうという紹介だったと思う。セキュリティということで、きちんとした団体が借りて管理すればいいが、どなたでもどうぞというのはなかなか難しい。私は警察官に何回か来ていただいて、サロンを開くときは「警察官立寄所」という札を下げている。

## 委員長

いろいろな人に支えられていないと運営は厳しい。専門家の立場が必要になっている。

## 委員

今の話はすごく重要で、セキュリティの話に限らず、「誰でも」という言葉の重さがあると思う。具体的に考えるときに、居場所をつくって、そこに自閉症の子でコミュニケーションの難しい子、認知症で難しさを抱えている高齢者、そして障がいを持っている方、そういうことが複数重なった瞬間に運営は立ち行かなくリスクがあると思う。そこをどうするのかというと方法は2つある。1つは連携していく

ことで、行政やほかの団体とのネットワークを作って、そちらにリファーしていく。もう一つは職員の専門性を上げる。ただ、それをしようと思うと人件費がかかる。そこをしっかりと描いておかないと、開設したあとにもものすごく大変になると思う。対象はどういう人たちなのか、対象を絞るのならそこから外れる人はどうするのか。その検討を重ねておいたほうがいい。

#### 委員長

地域の中に居場所をつくっていくという場合は、そこに専門職が入るとその人を目掛けて相談に来る人たちが出てきて、その専門職の人が働けなくなる。今まではそういうことがあった。それを乗り越えるためにどうするのかを考え始めている地域もある。地域の人たちがふわっとした考え方で、何か専門的な相談は受けられないが、いろいろな話はできるという居場所をつくる。それを基にして人と人がつながって、今まで見えてこなかった情報が入ってきて専門家につながって命が救われたというケースがいくつも出てきている。その地域でやろうとしている人たちが、どこまでやるのかをきちんと考えていかなければいけない。その地域の人たちに聞いてみなければわからないことがある。でも、選択肢はいくつかあると思う。

#### 委員

NPOに任せるとするのは、みんなが求めている社協像とずれてしまうのではないかと感じている。社協というのは一般の人たちの声を吸い上げてくれる、そこでの活動の展開ということでボランティア活動も運営しているので、それをどこかに放り投げてしまうということは、単に社会福祉法人をつくらせているみたいな状態になって、また専門職の問題にも決まった枠ができてしまう。一般の地域の人たちが使うにはちょっと懸け離れた箱モノができてしまうように受け止めてしまう。さっきおっしゃったように、ほっとできる場所としてみんなが集まりながら、いろいろな地域の財源をうまく入れながら運営をしていく。あまりかたちを求めていくとできない。だから、5年計画というのであれば、その中でプランを立てて1年間ずつ振り返りながらやっていくのがいいのではないかな。

#### 委員長

最初から枠組みをつくらせると枠組みづくりだけで終わってしまう。その一步をどこから踏み出すか。

#### 委員

今はコロナ禍で、就労している障がい者の方も間引きで仕事に行かなければいけなくて精神面で不安定になっている。また、地域の人々のニーズも変わってきている。実際私たちは1年先も見えない状況の中で5年後のことを言っても難しい。

#### 委員長

継続していくことは大切だが、5年後という目標をきちんと固めてしまうと身動きが取れなくなってしまう。

#### 委員

その居場所にどんな人が行くのか。9時～5時で行ける人を思い描いているので、やはり地域の高齢者、子どもが小さいお母さんとか。未来空間ほむほむは、区内で障がい者の居場所づくりを5時以降にやっている。9時～5時で行ける居場所ということでターゲットは絞られていると思っている。先ほど

出た自閉症の方と認知症の方が混在したら大変なことになるということもあるし、今日は何曜日だから認知症の方は来られませんという居場所にもなれない。今、居場所をやっている方の経験談を聞いて学ぶことも一つだと思う。社協がやる以上は居場所として集まるのではなくて、そこに地域の課題が見えたときに社協が助けてくれるようなつながり方。それをどこかのNPOがやっても私は構わないと思うけれど、社協が運営する以上はこんな課題が見えてきたという発信源であるといい。

委員長

副委員長が拠点と言われたが、その地域のリーダーにこれが課題だと言ってもらったとき、そこから始めてもいいのではないか。しかも、それによって変わる。先ほど言われたように、夜でなければ来られない人もいるし、土日でなければ来られない人もいる。そこは最初の一步をどこから踏み出すかということで運営の仕方も変わってくるかもしれない。

委員

昔ならどこかの家でお茶飲みをするお年寄りがいた。そういう雰囲気そのまま持ち込んで、なおかつ地域の課題がそこで掘り起こされる。もっと広い場所なのか。一軒家？

委員

それほど広い場所ではない。

委員長

この先広げていくなれば、いろいろなかたちが出てきそう。

委員

今キーワードで浮かんでいるのは、社協がやる意義、ビジョン、ターゲットが広い、かつ多様な人がいる。そうすると、もう場所は決まっているので、あとは時間によっていろいろな団体をいかに振り分けるか。毎日来られることだけがゴールではない。もしかしたら午後5時以降も人が来るかもしれない。

委員

私が始める前に社協の方に連れて行っていただいた中野の一軒家、あれはNPOがやっていたのか。

事務局

杉並と世田谷に行って1つは生協がやっていて、あとはNPOだった。

委員

一戸建てを借りている。そんなに広いスペースではなくグループでやっている。定年を過ぎたヘルパーさんが運営していた。家賃は最初の2年間どこかから補助が出ていた。その2年間の助成が終わったあとは自分たちで運営しなければいけないということで、教室の時間貸しをしてお金を得ていた。昼ご飯も出していて、誰もが立ち寄って500円で食べられた。そういうのがいいと思った。世田谷のほうでは農作物を届けてくれる方がいるから買わなくていいという話だった。

委員長

いろいろな人たちのサポートがあって運営されている。

副委員長

この東金町の建物は一軒家で2階建て？

委員

木造2階建てで、1階が9畳、10畳、6畳、4.5畳。2階は8畳一間しかない。

副委員長

それに台所と風呂がある。広さによってどういう活動ができるのかはある。日中は何かの営利団体に貸して、夜間は地域の人たちが自由に使うということを考えているのか。

委員

土曜日も含めて週5日ぐらい9時から5時までなら、1階だけをいつ来ても入れるというかたちにしたい。とりあえずスタートはそのぐらいの時間で、あと、いろいろと運営団体とやっていく中で夜間も必要だということであれば夜間も考えていきたい。管理運営そのものを全部NPOに丸投げするわけではなくて、日中の電話や問い合わせ、活動中に事故があったときに対応するという意味での管理運営ということでもらうことで考えている。社協としては、そこで活動しているいろいろな団体や利用者との調整役の役割を果たしていきたい。

副委員長

葛飾区内には町会会館とか学び交流館とか、そういう区の施設がたくさんある。どの施設もいろいろな団体が有効利用している。例えば私の家の近くには亀有学び交流館があって、1階のフロアは自由に誰でも出入りができる。そこには公務員の退職者が管理員としている。いろいろな団体が時間借りをして活動しており、積極的な活動を展開している。そういうかたちを考えていると思う。

委員

そういうイメージだ。

副委員長

利用されるのは東金町の住民なので、その地域内のいろいろな団体に声を掛けて皆さんの知恵を出し合って有効活用されることを期待する。

委員長

今までこの委員会では抽象的な、地域のつながりをつくる、地域で支え合いをするということで、実際にどうするのかという話になると何となくわからない。社協から、まず1個やって広げてみたいという提案がある。こういうものが必要なのかどうかというところから具体的に考えていきたい。

委員

必要はあると思う。そのやり方による。誰でも近くて行ける場所は大事だ。その点はいい。

#### 委員長

そのための条件がいくつかある。それはビジョンの問題、人の問題、サポーターの問題もある。

#### 委員

東金町で必要だと思ってなされるのが一番だと思う。

#### 委員

ほかの民間でやっているところとどこが違うかをはっきり打ち出したほうがいい。その場所があるということは本当に大事だと思う。東金町の方たちが欲しいと言ったかどうかは別にして、そういう場所があってもよいと言っているのなら、進めたほうがいい。今まで定期的にしかやれなかったサロンのものが、場所があって何回もできるとうれしい。大掛かりなサロンでなくて、拠点があってサロンがいつでもできる。それはいいチャンスだと思う。逃したら惜しいと思う。

#### 委員

東金町で子ども食堂をやる人が月に1回でも多世代で集まる場所をつくってくればある程度解決するのではないか。

#### 委員長

運営委員会というか、地域の支え手の人がみんなで集まる場があるといい。みんながサポーターになって、そこに機関の人やNPOの人たちがいて、地域の人たちがいる。どのように運営していくのかはいろいろ議論があるかもしれないが、そういう場があるとよい。そのときには何のためにやっているのかという目標をはっきりさせないといけない。

#### 委員

この活動は私たちも必要だと思っている。東金町でせっかくやろうと決まったのだから、運営の仕方や管理の方法をきちんとすれば、やりながら変えていくということもある。やってみないとわからないところもある。いくら頭で考えてみても、実際そのようにならないこともある。やりながら考えていくことも一つだ。そのときは皆さんが集まって知恵を出し合って、地域のために変えていくのがいいのではないか。

#### 委員

東金町地区は小地域福祉活動を最初に先進的にされた地区で、サロンというのは聞いたことがないけれども、その小地域福祉活動の一つとしてやるということではないのか。

#### 委員

それは、これから声を掛けていこうと思っている。今は地区センターでメインにやっているが、こちらでも活動しないかということで声掛けはしていきたい。

#### 委員

小地域福祉活動委員会があるから、それを抜きにして違うところに声を掛けると、せっかくやっている小地域福祉活動の人がなぜ言ってくれないのかと思うのではないか。内容的には今までは健康体操をやっていたと聞いているが、そちらにも聞いてみてからのほうがいいのではないか。

委員

もちろん、そうする予定だ。

委員長

今までやってきた人たちと手をつなぎながらやっていくことも必要だ。

委員

また違うところで立ち上がるかもしれないが、とりあえずは声を掛けてみる。そういうことをやりたかったという声が出てくるかもしれない。

委員

面白い取り組みだと思うので、これをネタにしてみんなが集まって話をするのも面白い。

委員長

それが積み上がっていったときにほっとするとか、いろいろな人たちが集まってくることを描いただけでも楽しい、ワクワクするようなプロジェクトだと思う。抽象的な言葉を並べた計画があってもいいけれども、みんなで集まって、この地域にできるといいというものがつくられて、それを策定委員会、作業委員会も含めてみんなでバックアップしていけるといい。

委員

素晴らしい取り組みなので成功すればいいなと思っている。今日の話聞いていて一番思ったことは、関わる人が非常に多いので「船頭多くして船山の上」にならないようにすることがとても重要だ。利用者の方で緊急に意思決定が必要ときに誰が決めるのかというところで止まってしまって、一番困難を抱えている人に迷惑を掛けることにならないようにしないといけない。森谷委員がお金の話をしてくれたのは非常に良かった。自分だったらこのお金をどう使うかを考えていたが、やはり週5日開いている場だったら、そこに責任者がいることが理想だと思うので、人件費に全額出すのかなと思っていた。

委員

先ほども言ったように社協の役割というところで、地域と対等な立場に立っていくことが非常に大事だと思う。日中活動であってもそれをある1つの団体に任せてしまうのではなくて、運営委員会みたいな組織を一般の人たちを対象として団体に投げかけるのではなくて、民間のコーディネーターを公募する。そうすると、じかにそこに関わりたいと思う人が出てくる。その運営委員会の一員として社協が対等な立場でコーディネートしてもらおう。それが私たちの求めている社協像だと思う。ただ民間に投げたかたちだったら、序列がそこにできるだけで、社協の役割としては違うと感じている。

委員

子ども食堂をやっていて、ここで委員に出会って、委員が手伝ってくれたので雰囲気がすごく変わった。委員が来てくれることで安心感が生まれた。町会長だから町会会館を借りられるようになったことが大きなメリットだ。そういうつながりづくりは有益だったと思っている。場所を借りられたというメリットもあるが、来る人の年齢の幅ができて雰囲気が変わった。いろいろな団体との連携のコーディネートを社協がやってくれれば、東金町でもいいシナジーが生まれると思う。



## 委員長

見えないけれど、つなぎ合わせていくというのは大切な仕事だ。

## 副委員長

委員のお手伝いをして、子ども食堂やフードパントリーという全く知らなかった世界を知った。いつもおじいちゃんおばあちゃんの相手をしていたのが、今度は子どもたち相手のボランティア活動で大変新鮮な活動だと思っている。ただ一つ、社協さんに苦言を呈したい。この会に来て初めて委員たちと名刺交換をした。お互い亀有で活動しているのに、なぜ今までこういう団体があることを教えてくれなかったのか。そういうコーディネートについて社協さんには力を尽くしていただきたい。

## 委員

東金町の件については、もともと区が障がい者のグループホームとして購入して貸し出していた。その方の運営が終わって、区としても今後どう活用していくのかという中で、全庁的に活用の希望を募ったところ、区内からは特に希望はなかった。社協からは前からそういう話をもらっていたので、今回は社協で有効活用してもらうことになった。地元の人というよりは、区で場所が空いたので社協で積極的に進めていただくことになったと聞いている。地元の方たちがどういうふうに活用していきたいかが大きなポイントになると思っている。ターゲットを絞るということでは、最初から間口を広げて誰でもいいというほうがいいのか。最初は子ども、あるいは高齢者をターゲットとするのか。どちらがいいのかよくわからないが、それより地元の方々と社協で議論していく中で良い方法を導き出すしかないかと感じている。

## 委員長

行政施策や基本方針に「つながり」が盛んに出てくるが、行政としてのやり方は何かあるのか。

## 委員

国からは重層的支援体制整備事業で宿題をもらっているが、今、区では生活に困っている方の相談を受けている福祉管理課というセクションを取っ掛かりにして、具体的なオペレーションを進めていこうと地道なことをやっている。アウトリーチも少しずつやっている。あと、いろいろな方が属性にかかわらず相談に来るので、まずは受け止めてどこにつなげていくかという入り口に差し掛かった。今は具体的なスタートを切ったという段階だ。

## 委員長

今日は課題出しだと思っている。いただいた課題をきちんと整理した中でどういう戦略で「つながり」を具体化していくかが、この活動計画の一つの柱になってくる。今日いただいたものも含めてもう一段具体的な検討をしていく。また、そもそも活動計画は何を目指すのかというところをもう一度考え直してみたい。今日いただいた課題を事務局で整理していただいて共有していきながら、もう一度議論していきたい。最後に言われた「まずやってみることが大切だ」はおっしゃるとおりで、そのときの初めの一步として地域の人たちの話を聞くというのは大切なキーワードだと思う。

## (2)第4次葛飾区地域福祉活動計画「素案」について

事務局より、資料2に基づき説明があった。

事務局

お気づきの点、または修正点、アイデアを机上配布した用紙に記入して8月17日までにファクスでお送りいただきたい。

委員長

8月17日に締め切った以降は修正が加えられないのか。

事務局

大丈夫です。

委員長

今日の議論も含めて課題や修正点などを出していただければよい。また次回の作業委員会で修正も出てくると理解してよい。

まとめるつもりではないが、具体的になってくると課題が出てくる。29ページに「地域でつながり、支えあうしくみをつくります」という活動計画の基本方針が出ているが、これを誰がどういうかたちでやるのかというところで社協のコーディネーターの役割が大きいということは、皆さんで共通している。そこにサポーターがたくさん必要だ。しかも、継続してやっていく必要があり、その継続も地域につなげていくという考え方が必要だ。そこで具体的にどう始めていくのか。幅広くやるのか、絞っていくのか。それも地域によって違いがある。リーダーが、その地域の人たちがどういう課題を持っていてどう進めていきたいかをきちんと確認して進めていくことが必要だ。その上で、お金の面も含めて、継続していくための運営のあり方は仕組みということで課題として出された。それをどう乗り越えていくのかを具体的に話していく。そこで活動計画をどのように進めていくのかという議論を深めていきたい。

(3)その他

事務局より、今後の予定について説明があった。

委員長

今日出された課題について次回の会議で深めていきたい。

3. 閉会

(以上)